近藤禎夫教授御退任にあたり

博士（経営学）近藤禎夫教授は、2004年11月28日の御誕生日をもって満70歳に達せられ、今春３月には、駒澤大学の定年制によって、退職されることになった。駒澤大学にとっても、学生にとっても、誠に惜しみても余り有るものと言わざるをえない。

近藤先生は、1957年に立教大学経済学部を卒業されたのち、同大大学院経済学研究科修士課程を終え、明治大学大学院商学研究科博士課程に進学され満期退学後、鹿児島経済大学へ、それから熊本商科大学で研究・教育に携われた。そして1969年に駒澤大学経営学部教授に招聘され、それ以来、36年間という長い期間にわたり、特に、原価計算論の研究と教育に献身されたのである。

先生の学問研究の業績の数は枚挙にいとまないほどであり、駒澤大学経営学部が内外に誇るべきものであった。先生の学問研究の精密性は後年になるほど、高められていったのではあるけれども、何と言ってもその最大の特徴は、1993年に立教大学へ提出された先生の学位論文『鉄道原価計算制度史の研究－国鉄民営化までの軌跡－』（303頁）の中に良く浮き彫りにされている、と言えよう。

さらにまた、先生は研究・教育のみならず、経営学部長、大学院経営学研究科委員長、総合情報センター所長、評議員、理事として大学の重職につかれて大学の教育行政・運営活動に当たられたのであった。一方また、御専攻の分野では数多くの学会役員、国会（衆議院・国鉄改革特別委員会・中央公聴会）における意見表明、世田谷中央ロータリークラブ会長、台東区都市計画マスタープラン・ワークショップ委員などとして、わが国の鉄道事業および地域社会の発展に寄与されたのであった。

この度、近藤先生が定年を迎えられるに当り、これまで先生に教えを受けた多くの方々と一緒に、先生の功績に満腔の敬意を表する。

終わりに、これからも先生が、駒澤大学と経営学部の一層の発展のために、また学界・実務界のため、ますます御健闘下さり、私たち後進を御指導下さるよう念願して、一言、経営学部長のあいさつにかえるものである。

経営学部長
商学博士　宮城　徹